

# 大通公園を望む窓辺から

## コロナ禍とIT

常任理事 青木 秀俊

現在のコロナ禍において、日本はIT後進国かもと疑いを持ったのは私だけではないと思う。4月に長らくドイツで日本食レストランを開業していた知人夫妻が来旭した。ドイツでは新型コロナ感染症の拡大防止のため3月16日より国境封鎖、3月22日より全土一斉にロックダウン措置が取られた。夫妻はレストラン休業後、3月末に何とか帰国した。彼らから聞いたドイツと日本のコロナ禍による緊急支援対策金申請と対応の違いには驚いた。4月の初めにドイツの顧問弁護士から申請書のメール連絡があり、約30分かけてスマホの画面に記入後送信し終了。48時間後に申請書が認可され、支援金が口座に振り込まれた。また数日後、一時解雇の従業員への給料補償も同様にスマホで迅速に行われたと言う。これに対し日本の4月末から始まった10万円の一括給付が、3ヶ月も掛かってまだ完了していないらしい。この差は日本におけるデジタル化の後れと指摘されている。せっかくのマイナンバー制度の導入も何の役にも立たなかつたのである。PCR検査についてはいろいろと議論されているが、データ集積システム等では、日本はファックス送信データの手打ちのままで、またシステムの共有化などができず世界に大きな後れを取っている。

コロナ禍と関係ないが、昨年11月、日本航空医療学会で、ドローン産業の世界における航空医療への応用についての講演を聴いた。この分野においても日本は、欧米、中国等より数年の後れがあると言う。どうやら行政による規制緩和の遅延がベンチャー企業の育成の妨げになっているらしい。日本人は困らないと積極的に動かないという風潮を止め、先送り主義を改め、コロナ禍を機に世界に後れを取らないデジタル化の早急なイノベーション、対応が求められている。



## 散 髮

監事 篠島 弘

病原体SARS-CoV-2による新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は未だに感染拡大を続けている。これが怖くて数ヵ月、散髪に行くことを止めていたが、むさ苦しい髪形となり、我慢の限界を超えたため床屋に行くことにした。予約時間に行くと自家用車内で待機するよう指示があり、先客が散髪を終えて店を出た後、理容院への入室を許された。マスク装着のうえ、私一人のみ入室、検温、消毒、窓やドアを大きく開けて換気は万全、密接を避けるためカミソリによる顔剃りはせず、鋸と特殊な電動バリカンを用いて短時間で散髪を終えた。生え際は顔剃りした時と殆ど変わらず、最近の道具の優秀さと技術に脱帽した。感染を防ぐためにさまざまな努力をしている姿を目の当たりにして、その努力に感心した。

Johns Hopkins University/CSSEのウェブサイトによればCOVID-19の2020年8月28日現在の世界の累計感染者数は24,466,482人、死亡者数 831,827人(3.40%)である。日本の累計感染者数は65,991人、死亡者数1,241人(1.88%)と記載されている。

厚生労働省の2020年8月26日現在のデータによれば、60歳未満の致死率は0.6%以下であるが、60歳代の致死率は2.4%、70歳代は7.8%、80歳以上は17.6%となっている。また、死亡者数1,177人の内訳は60歳未満が65人(5.5%)、60歳以上が1,112人(94.5%)である。

SARS-CoV-2に対する有効なワクチンと治療薬が開発されるまでは感染拡大が続くと予想される。COVID-19死亡者の9割は老人のようなので、私も3密(密集、密接、密閉)、WHOの3C(Crowded places, Close-contact settings, Confined and enclosed spaces)いわゆる「集・近・閉」を避けながら、これからも仕事と生活を続けていくと思っている。